



【協力】(左側)
2017年展
富山大学
2016年 藤原 芳博



【協力】(左側)
富山大学
2016年 藤原 芳博



【協力】(右側)
富山大学
2016年 藤原 芳博

広い海にはたくさんのごみが今日も漂っている。
ひとは、自分のものに最後まで責任を持つべきだ。
ものを大切にすれば、自然にもきっといいことがある。
ものを、海を大切に。



写真 2017年 (2016年)

平成29年 **6.8** 木 ▶ **7.2** 日

9:00 ▶ 17:00 休園日：火曜日

会場：氷見市海浜植物園

1階特設ギャラリー(入場無料)

プロデュース／富山大学芸術文化学部 後藤 敏伸

【主催】(一財)氷見市花と緑のまちづくり協会、(公財)環日本海環境協力センター

【後援】富山県、富山大学芸術文化学部、(公財)上中環環境財団

【協力・作品制作】富山大学芸術文化学部

富山大学芸術文化学部生 作品一覧

最優秀賞



Aqua 'marry' ne

川島 愛結希

人魚姫、ウンディーネなど、海に住むおとぎ話の主人公が人間に恋をする物語は、今日も現代の私たちまで語り継がれています。少女は絵本を読む手を止め、言いました。「絵本のなかのお姫さまは、海を汚くするにんげんのことを本当に好きになれるの？」彼女たちが人間に恋をしたのは、海がまだ綺麗であった昔の話。私たちは海と共に歩み続ける限り、美しい海を保ち、愛し続けなければなりません。おとぎ話の主人公たちが、今もこれからも、人間に心から恋し続けることができるように。

優秀賞



波乗り

高橋 沙綾

世界を一つにつなげている海に漂うごみ。
美しい海を守りたいのは人間だけではないはずだ。海にすむ生き物たちは自分の住む世界を私たち人間の生活ごみによって汚され続けている。
そんな問題を抱える富山湾に打ち上がったのは海からの使い。
その姿は海のおいがしみ込んだ流木の骨格を持ち、いたるところにごみが絡まって身をかがめているようだ。
海からやってきたこの使いは海の世界に起こる問題を体に移してやってきた。
その命を使って彼は私たちに何を伝えるのだろう。

優秀賞



海星のドレス

森田 結香

漂流物たちも組み合わせれば綺麗なものに生まれ変わらせることができると思い、
組み合わせでドレスを作りました。
海には、たくさんのものがごみとして流れ着いています。
そのごみとなってしまったモノたちが、少しでも綺麗に、華やかに見えますように。

優秀賞



再生の火

佐渡 涼子・若林 有那

この作品のテーマは「再生」です。
再生の象徴である不死鳥をイメージし製作しました。
漂着物を用いて再生を意味する不死鳥をかたどることにより、ゴミで汚れてしまった海も人の手で綺麗に戻せるということを表現しました。

奨励賞



海の中の手が掴むもの

大宮 日奈

海には沢山の漂着物が流れてきています。
もしその海の中に手があったと仮定すると、何を掴むことができるのかと考え、製作しました。
手の形をイメージし、木を組み立てていきました。この手のようなものが海で掴むことができるものを、隣の物体で表しました。
その掴むものは正体不明です。希望か絶望かもわかりません。
また、そもそもその手で掴めるのかもわかりません。
その海の手が掴むものは何なのかを決めるのは、海の中に流されている物体次第です。

奨励賞



さいせい

小木曾 文香

もとは大きな木の一部だった木の枝である流木をいくつも組み合わせ再び木に“再生”させました。
この“再生”には、ごみで汚染された海がふたたびきれいな海へと“再生”するようにという願いが込められています。
この木の一部には海に流れ着いたごみが使われており、自然物と人工物が海に流れている今の現状を表しています。

奨励賞



記憶を駆ける

砂浜で忘れられたものにも、
かつて役目があった。
思い出を辿ってあの頃へ帰ろう。

関西 菜緒

奨励賞



人工の蜘蛛の巣

丸山 桂林

人が流した縄で、自然に流れた木の枝、竹の枝を縛り蜘蛛の巣を表現した。
自然界で蜘蛛の巣にひっかかっていると、蜘蛛に食べられてしまいます。そんな、蜘蛛の巣を人間が作った縄で作ることで自分たちの作り出したゴミで自分たちの首を絞めている様子を表しました。
三角錐2個で作ったのは、安定感があるけれど小さい三角錐を大きい三角錐の中にぶら下げることで揺れ、不安定感であることで自然界が人間によって脅かされているということを感じてほしい。
三角錐で4面とも蜘蛛の巣の様にしなかったのは、上から吊るすことで床に影が映るのでシンプルにすることで影を楽しんで欲しかったから。

奨励賞



のまれる

山下 瑞稀

本体の縄は海(波)を、白い木は人の体を表現しており、ゴミの波に人が飲まれて苦しんでいる様子を表しました。人の産物であるゴミをポイ捨てすることが、結果的には自分自身(人間)の首を絞めることになるというメッセージを込めて制作しました。



おーい、空よ！

森山 円

海の水は蒸発し、空へのぼり、
やがて雨となりまた地上へ降り注がれます。
今日の天気はいかがですか。



大きなごみ

吉田 早希

辿り着いた先、生物の連鎖から外されてしまった私。
艶やかで美しく優雅。
粗雑で醜く惨め。

それでも両方同時に私であることは変わらない事実。



すてるということ

高山 楓生

家を想定し組み立てた流木のオブジェに海辺に落ちていた沢山のゴミを貼り付けて、自分たちが捨てたものはかえってくることを表現しました。

上から巻き付けている縄は、ゴミと私たちは生きていく上で、一生向き合っていくなくてはならないものだということを表しています。



漂着物の音

玉橋 伶奈

その細い木の棒で、吊り下げられているものを叩いてみてください。いろいろな音がしますね。浜に漂着した木、ボール、缶、ビン、プラスチックの欠片の音です。しばらく浜に漂着したから出る音でしょう、普通にそれらを叩いた音とは少し違う気がしませんか。

この作品では、いろいろな音で、浜に漂着するたくさんものを表現しました。作品を見る人にも、漂流物が多いという問題を近くに感じてもらうために、触れる作品にしました。

細い木の棒を置く台には、浜にあるきれいなもので飾られています。

「こんなに美しいものがある浜を汚さないで。」
そんな音が漂着物から聞こえてきます。



漂魚

向井 梓

漂流物である主に木の破片を中心に使って魚を表現しました。魚の体の一部に瓶やプラスチックなどの人が捨てたであろう人工物を加えることで、海岸にごみ流れ着いていることを表しています。魚は人が食すもので身近な存在です。そのような存在を漂流物で表現することで、より漂流物に関する興味を引くためです。



夢のない旅人

日南田 晴加

私の思う夢は輝きの象徴である。捨てられ、流され、ゴミと呼ばれたただ存在し続けている。そして輝きを失った。けれど、存在している限り誰かに拾われたいとふと思うとき、また彼らは波に攫われる。とどまっていた場所のせいにして。それなら、と私は彼らに足をつけた。これでまた、旅に出れることだろう。今度は自分の足で。



21世紀の人間の姿

菊池 あき(堀井 章生)

プラスチックは、腐らない。

細かな破片となって、数百年の月日をさまようことすらあるという。

打ち捨てられたものたちは、どこに漂着するのだろうか？

人間たちは、どこに漂着するのだろうか？

打ち捨てられたものたちの、一つの漂着のあり方が、この作品だ。

目前におかしな形で立ち上がるのは、僕自身であり、他でもない貴方自身だ。

漂着物アート展 2017

県内をはじめ国内の海岸に流れ着く多くの漂着物(漂着ごみ)、そして、日本国内からも流れ出ていくたくさんのごみ(漂流ごみ)… きれいな海岸の景色を損なうだけでなく、海に暮らす生き物や漁業への影響も心配されています。

こうした海洋ごみのほとんどが身近な生活ごみであることを、皆さんご存じでしたか? 私たちは、知らず知らずのうちに大切な海を汚しているのです。きれいな海を将来に残していくためには、私たち一人ひとりがこのことを理解し、身近なごみをきちんと始末するなどの取組みをすぐに始めることが必要です。

このようなことから、次の時代を担う青年芸術家が海岸漂着物を利用して制作したアート作品を展示する「漂着物アート展2017」を開催いたします。

このアート展をきっかけとして、私たちの大切な海を守るために何をすべきか考え、みんなで行動してみませんか。

氷見市立窪小学校4年生の作品も展示します。
6/14 (水) ~ 7/2 (日)



「おしゃれなネコ」
笹尾麗緑 中山結衣
山下結衣 土佐真央
(氷見市立窪小学校)
2016年



「新型ロボット18号」
東海宗太郎 矢崎大空
平野圭紳 柳澤空翔
西田敦郎 十二橋太
高木聖 齋藤祐
(氷見市立窪小学校)
2016年

お問い合わせ先



氷見市海浜植物園
富山県氷見市柳田 3583
TEL0768-91-0100



(公財)環日本海環境協力センター
富山県富山市牛島新町 5-5
TEL076-445-1571